

# PMシンポジウム2020速報

2020年9月18日

日本プロジェクトマネジメント協会  
副理事長 佐藤 義男

# PMシンポジウム2020開催概要

- 開催日時:2020年9月10日(木)、9月11日(金)  
(ライブ配信会場、タワーホール船堀)
- 主催:特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会  
(PMAJ)
- 後援:経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)、  
独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)、  
一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA)
- 大会参加者は過去最大  
総数2,833名(昨年2,802名)
- 豊富なプログラム構成(合計78講演)  
1日目は、ライブ配信(2つの基調講演、4つの特別講演)、録画配信(22のトラック講演)。  
2日目はライブ配信(5つの特別講演)、録画配信(39のセッション講演、6つの出展企業セッション)。

# 特 徴

- シンポジウムのテーマ「ビジネスのデジタル化」

デジタル化に対応して企業が競争力を維持し、持続可能な社会に貢献していくためには、新製品・サービスのデジタル化を行うこと、またAI、IoT、RPA等の高度なデジタル技術を駆使してプロセスのデジタル化を進めることが肝要である。
- ライブ配信

1日目：

  - 基調講演1「スタートアップと大企業のオープンイノベーションによる未来創造」、出雲氏／ユーグレナ
  - 基調講演2「“あいだ”の経営－マイクロ人本主義経営の台頭－」、大室氏／長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
  - 特別講演1「デジタルトランスフォーメーション推進に向けたデータ活用の動向と備え」、池田氏／富士通
  - 特別講演2「上場と非上場化」、萩原氏／豆蔵 代表取締役会長兼社長
  - 特別講演3「ポストコロナのSDGs x DX社会」、菌田氏／クレアン代表取締役
  - 特別講演4「技術と叡智、IHIの技術力と人材で実現する社会」、加藤氏／IHI

2日日:

- 特別講演1「ビッグピクチャー×デジタル」、紺野氏／多摩大学大学院 教授
- 特別講演2「心を地球化し、身体を地域化する」、岩崎氏／元国際協力NGO日本ボランティアセンター
- 特別講演3「“五感経営”とデジタルトランスフォーメーション」、石坂氏／石坂産業 代表取締役
- 特別講演4「なぜ今デザイン経営なのか」、今村氏／特許庁
- 特別講演5「永遠に終わらない会社をめざして」、南雲氏／八海醸造 代表取締役

- 録画配信

シンポ参加者は、9月25日まで視聴できる。

# 開会セレモニー



表彰式

表彰式では、4人の方が表彰された。



開会挨拶(加藤理事長)

# 基調講演1



出雲氏(ユーグレナ)

- 大学生の頃バングラデッシュで学び、「食糧問題」をテーマとして選び、直感で「ミドリムシ」を原料とする開発に取り組んだ。
- ミレニアル世代のスタートアップ、ベンチャー企業の基盤について
  - 2005年から大学初スタートアップを開始、大企業連携によるオープンイノベーション実施。
- 異業種とのコラボによるオープンイノベーションの重要性と推進ドライバー
  - 今、イノベーション創出の力が必要である。
  - 日本での起業家精神とDXは世界で低い。これを大学で推進すべきである。
  - 社会変化が激しいから、対応できる若者に任せるべき。
- 「自由で活力のある社会には、イノベーションが必須だ。その中心は若者である。」と強調した。

## 基調講演2



大室氏(長野県立大学)

- イノベーションは認知されていない世界を前提としている。
- トピックスを交えてイノベーションの最新動向を解説した。
  - ビジネスで考えるべきポイントは、「曖昧さ又は未知」、「主観と客観」。このため、「コラボレーションと個の確立」が必要。
  - 今、直観が求められている。直観の確からしさは、知識と経験に比例する。
  - 今、内臓感覚・内臓思考が注目されている。
- ミクロ(認知)人本主義から読み解くイノベーションに求められていること。
  - 見えていない世界から見えている世界を見る。
  - 個の確立(リスクを分散する)。
  - 多様な経験と幅広い知見を持つ。

# 特別講演(1日目)



池田氏(富士通)

近年のデータ活用プロジェクトの問題(複数プロジェクトを同時並行、データの提供者と活用者の間接的な対決など)と解決アプローチ(データ活用のプラットフォーム化、アーキテクチャの考え方)を紹介した。



萩原氏(豆蔵)

自身の経験を元に、これから起業する方へのメッセージ(自分の会社は、この国の未来に必要である?)を伝えた。  
上場し、MBO(経営陣買収)して非上場にしたのは設立の原点に帰るため。  
人生で気付いたことは、「豊かな人生を送る秘訣は、沢山の“有難う”を集めること」と述べた。

# 特別講演(1日目)



藺田氏(クレアン)

クイズを通して、社会課題を確認した(SDG'sの背景)。さらにポスト・コロナ時代で起こりうる社会変化、ミレニアル世代とZ世代(倫理的消費の若者)への影響を解説し、SDG'sゴールが実現しDXが発展するシナリオを説明した。



加藤氏(IHI)

DX注目企業2020(日経)として、全社の取り組み事例を紹介した。DX推進体制(危機意識、トップダウンと横串機能、CDOとその役割)、さらにDXを支える5つのプラットフォーム例(IoT共通プラットフォーム、IoT/ICT人材強化、)を解説した。

## 特別講演(2日目)



紺野氏(多摩大学大学院)

DX推進に求められるのは「構想力」(ビックピクチャーを描く力)であり、イノベーションの駆動力として不可避であることを、「ハイアール」や「テスラ・モーターズ」を例に解説した。さらに、イノベーション経営推進のためツール(デザイン思考など)が不可欠である。さらにポスト・コロナ時代には「構想力」が要請されている、と強調した。



岩崎氏(元国際協力NGO)

国際協力NGOでの経験を踏まえ、「地球人」の一人としての生き方を提言した。そして、自身が見てきた世界の「現実」を踏まえ、未来の選択(デジタル化は果たして何をもたらすのか?)として「人類の未来への可能性」、「地方自治・地域自立の確立」を強調した。

## 特別講演(2日目)



石坂氏(石坂産業)

「五感経営」という経営手法と自社のDXの取り組みを紹介した。  
持続可能な経営“五感経営”とは、社員が自分の子供を働かせたいと思える会社を目指し、五感を使ってボトムアップで改善活動する。また、産業廃棄物事業での取り組み、SDG'sの取り組みを説明した。さらに、業務システムのDX(基幹システムのクラウド化、情報端末のスマートデバイス化など)を紹介した。



今村氏(特許庁)

デザイン経営プロジェクト(デザイン思考を活用)の取り組みを紹介した。  
「デザイン経営」とは、ブランド力とイノベーション力向上で企業競争力向上する手法。  
特許庁のデザイン経営の取り組みとして、デザイン思考研修の実施、デザイン代表責任者(CDO)とプロジェクト設置、ダブルダイヤモンド・モデル(正しい課題を発見・定義、正しい解決策を創造)、デザイン思考の実践を紹介し、<sup>11</sup>成果を強調した。

## 特別講演(2日目)



南雲氏(八海醸造)

社風「永遠に終わらない会社」を強化している経営の取り組み(単独での価格、販売会社の設立、レギュラー酒の品質向上、人材育成を目的とした高級酒製造蔵新設、デザイン考慮、新たな商品開発、地域開発)について紹介した。

今後の期待は、新商品の開発、輸出拡大、インバウンド拡大であることを踏まえ「業界自体が消費者を動かしていく」と強調した。

# ボランティアによる運営支援

- 延べ56名のボランティアスタッフが運営支援した。

